お茶会だより 5月号

大仏保育園 R1.5.29(水)

「何時になったらお片付けしてお茶会なの？」とお茶会を楽しみにしている子ども達です。名札をつけ、白い靴下をはき、ポケットにはお懐紙…手にはお扇子…と準備をしながら、心も落ち着かせています。

床の間

・掛け軸～薫風　・お花～ボタン
・香合～杉の木箱　・お菓子～練切、こいのぼり

2回目のお茶会では、茶室に入り並ぶ所から真剣な表情の子ども達。お床拝見で植田先生のお話を聞く姿勢も前回に比べ背筋も伸び挨拶や立ち振る舞いも自分で意識しながら取り組む姿も見られました。

また、箸やようじのお作法も経験し、箸の扱い方に苦戦し、お菓子を転がしてしまうハプニングもありましたが、覚えようと頑張っていました。

正しい箸の持ち方がお茶会にも繋がっていきますので、日々の生活の中で繰り返し練習し、自信をもって取り組めるようにしていきたいと思います。

水屋が行うお菓子運びの役は、一回のお茶会で前半4名、後半4名の計8名で行っています。選ばれた子ども達は特別な役割と思って張り切って取り組んでくれています。全員が順番に経験するようにしていますので、まだ経験していない子も自分の番がくるのを楽しみにしているようです。

懐紙

（かいし）…小ぶりの和紙でお茶会では、お菓子を取る時にお皿のような役目として使用する紙です。

・次回は茶花、茶室に飾る季節の花を生けるお稽古をします。

【今月の床の間】

《掛け軸》「薫風」　　《茶花》　「ぼたん」
《香合》　「杉の木箱」

掛け軸の「薫風」は、ちょうど今頃のような季節の心地よい風の事。爽やかな風を感じるような心地よいお茶席を作りたい、という植田先生の思いも込められていました。

「杉の木」の香合
～中には、夏に近付く今月からお団子のような練り香ではなく、香りのする“香木(白檀)”が入っていました。

《茶菓子》練切
“こいのぼり”

【お稽古の様子】

今月のお菓子“練切”は、箸を使っていただくお菓子。箸の扱い方も丁寧にお稽古しましたが、まだまだ難しい様子。それでも右手･左手を交互に使い、真剣な表情の子ども達でした。

(心の中で)お菓子をちょうだいします。

お箸を持って、左手をお皿に添えて…。

お茶碗の“持つ手(左手)・添える手(右手)”も少しずつ覚え、お茶碗も上手に持てるようになってきました。